シリーズ 探訪 わが町文化財 その93

高瀬の観音堂

高瀬の地名の由来は、かつて有田川がこの辺りを流れていた頃に高瀬（浅瀬）であったことに由来するという説があります。大正時代に著された「有田郡誌」によると、高瀬の地名は「高師」から転じたものと書かれています。高師とは高志とも書き、古墳時代に朝鮮半島の百済から招かれた学者の王仁（わに）を先祖とする渡来系の一族です。明治時代に藤並神社に合祀される以前は高師氏の祖先である王仁を祀る高瀬明神社があり、下津野村一村の氏神でした。

去る3月4日（水）、高瀬の観音堂で初午の会式が行われました。高瀬の観音堂は、きびドームの東側にある小高い丘の上に位置しています。「吉備町誌」によると昔、悪い病気が流行した時に祈願するとたちまち治ったと言い伝えられ、厄除けの観音様として名高いと紹介されています。かつては、ウバメガシの木の下に祀られていましたが、平成21年（2009年）に現在の堂が建立されました。

観音堂の中には、高さ約60㎝の自然石が安置されており（写真下）、中央には「奉練納観音経拾万巻」、その上に十一面観音菩薩の種子（仏を示す梵字）の「キャ」が彫られています。その左右には、「明和九壬辰」「正月十七日願主藤七」と刻まれています。明和9年（1772年）に、藤七という人物が願主となって観音経を奉納し、観音菩薩を祀ったことが分かります。

高瀬の観音様が祀られた江戸時代後期は、全国的にも大規模な飢饉が数多く発生した時代でした。有田地方においても、有田川の洪水や凶作・不作といった大きな被害が発生しており、人々の生活は大変苦しいものであったと考えられます。このような時代にあって、石に観音を刻んで祀り、苦しむ人心を救おうとした先人の厚い信仰心がうかがえます。

会式

本尊

広告 町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページURL https://www.town.aridagawa.lg.jp

VEGETABLE OIL INK